

進路支援通信

<R8-NO.4>



SHONAN SHINROSHIEN NEWS LETTER

湘南支援学校
支援連携グループ
進路支援班
2026年10月9日

社会とつながり続ける ―それぞれの視点から―

7月24日(金)に公開研修会を開催しました。今回はテーマを【社会とつながり続ける―それぞれの視点から―】として、企業や事業所の方を招いて質問にお答えいただく形で実施しました。

TOPIC1 : 社会とのつながりとは?―公開研修からみえたこと―

社会とのつながりは、特別なものではありません。人との関わり、役割、自分らしい生活の積み重ねです。学校にいるときから自分で選ぶ・挑戦する・失敗から学ぶ経験を重ねること、そして周囲の大人は本人の可能性を信じて支え続けることが大切だと、研修全体を通して語られていました。

【パネリスト】

- ・古河ニューリーフ株式会社 代表取締役社長 守屋 信雄 様
- ・株式会社ココルポート ココルポート平塚オフィス サービス管理責任者 清田 修也 様
- ・社会福祉法人進和学園 しんわルネッサンス 施設長 渡邊 真司 様
- ・社会福祉法人日辰会 ロータス授産センター サービス管理責任者 福原 綾子 様

TOPIC2 : 利用者の方が「社会とのつながり」を実感する瞬間

働くことは、特別なことではなく、日々の生活の中で人と関わり、役割を果たすことの積み重ねです。次のような場面が紹介されました。

- ・自分の仕事が誰かの役に立っていると感じたとき
例:「自分が携わった自動車部品が実際の車に使われている」
- ・働いた対価として工賃や給与を受け取ったとき
- ・地域の人や職場の仲間との関わりが生まれたとき
- ・“推し活のために働く”など、働く目的が自分の楽しみにつながったとき
- ・“特例子会社で清掃業務を担う”など、職場の一員として貢献できたと感じたとき



こうした経験が、「社会の中で自分は役割を持っている」という実感につながっていくとのことのお話でした。

●事業所ごとの「社会とのつながり方」

共通している点は、「人との関わりがあり、役割を通して社会に参加していること」でした。そのうえで、事業所ごとに特徴があります。

特例子会社	就労移行支援	就労継続支援 B 型事業所	生活介護
一般企業の一員として働き、給与を得る。ルールや責任を持ち、「職業人として社会に参加」する場。	一般就労を目指す準備期間。生活習慣や働く力を整え、実習や企業見学で社会との接点を広げる。	自分のペースで働く経験を積む場。工賃を得ながら地域や企業とのつながりを持つ。	日中活動や地域参加が中心。仲間との活動や交流を通して社会とつながる。

TOPIC3 : 児童生徒のうちに育てたい力(共通して挙げられたこと)

基本的な生活力

時間を守る
健康管理
生活リズム
身だしなみ

コミュニケーション力

挨拶
報告・連絡・相談
困ったときに助けを求める
思いを伝える

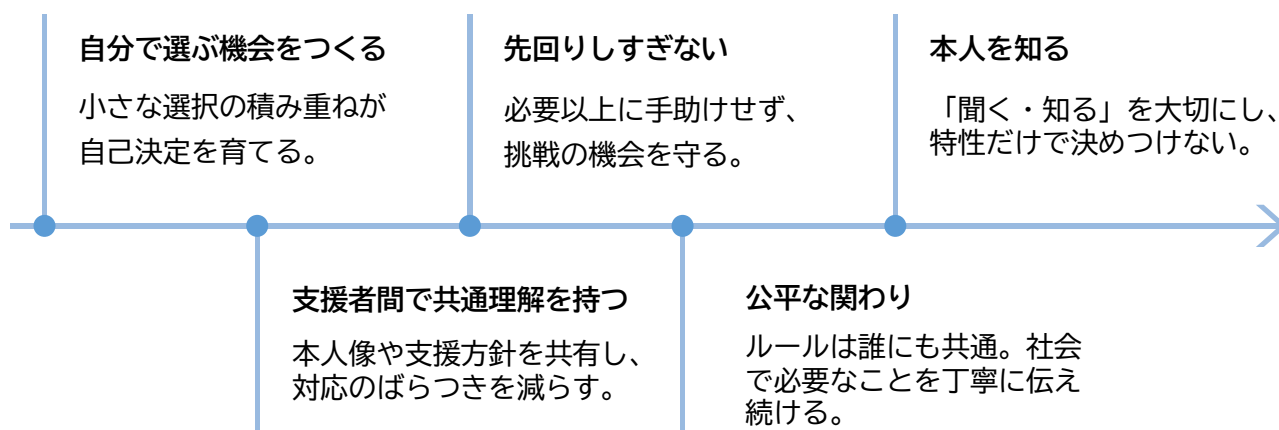
自己理解・自己選択

自分で選ぶ経験
好き・得意の理解
苦手の理解

● ポジティブな事例も教えていただきました！

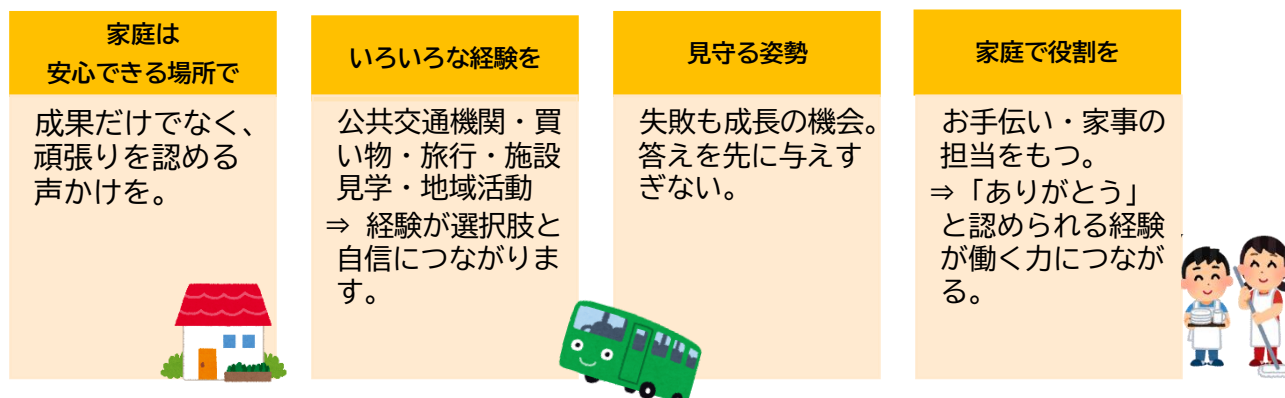
- ・ 「推し活をしたい」ということから就職につながった利用者の方がいた。
- ・ 趣味が働く意欲につながった利用者の方がいる。
- ・ 自分で選ぶ経験が多いほど、卒業後の進路選択がスムーズにおこなっていた。

TOPIC4 : 児童生徒が社会とつながり続けるための支援の視点



TOPIC5 : 保護者の方へのメッセージ

学校と家庭が同じ目標を持つことで、子どもたちの「社会とのつながり」はより豊かになります。



小学部から育てたい働く力 ～教員の企業研修～

TOPIC1

特例子会社での研修内容

研修先：富士ソフト企画株式会社(特例子会社)

障害のある方が働きやすい環境を整えた企業で、オフィスサポート業務や印刷物作成などを行っています。今回の研修では、就職予備校・業務支援チーム・総務チームでの体験をさせていただきました。

	部署	内容	
1 日目	就職予備校	カリキュラム体験(SST*1/Excel 講座 グラフの作成)	
2 日目	業務支援チーム	新入社員研修(自己紹介・アイスブレイク*2・グループワーク)	
3 日目	総務チーム	Excel 入力作業/配達弁当の振り分け業務	

*1:SST とはソーシャルスキルトレーニングの略。職場や生活の場面を想定して、「こんなときどうする？」を考える練習のこと。

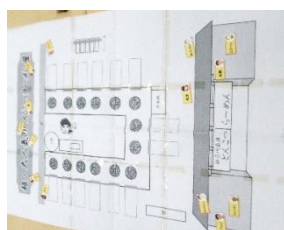
*2:アイスブレイクとは、初対面の人同士が話しやすくするための簡単な活動のこと。

TOPIC2

人とつながる力を育てる研修(2 日目の研修)

Goal: 「ラーメン屋の座席を完成させる」

グループワークでは、個人に与えられたヒントをもとに、超・大人気豚骨ラーメン屋の座席を協力して完成させました。仲間と協力することで答えに近づいていく体験でした。



1日かけてアイスブレイクやグループワークをすることで、先輩社員の方々と話しやすい雰囲気をつくり、お互いを知りながら働きやすい環境をつくることを目的としているそうです。また、会社として今後の指導にも活かしていくことを目的としているそうです。IT における仕事でも、コミュニケーションを大切にしながらチームで協力して業務を進める姿勢が重視されていること印象に残りました。

TOPIC3

生活リズムと健康管理が卒業後の生活を支える

特例子会社での就労を体験し、仕事内容や職場環境への理解を深めることができました。振り返りの中で、健康管理と日常生活管理がしっかり備わっていないと働き続けることは難しいというお話がありました。就職予備校では、「出席率が3か月で 100%であれば自信を持って企業に送り出せる」という話があり、日常生活の安定が就労の基盤であることを強く感じました。作業の正確性や速度だけでなく、生活リズムを整えることや自己理解を深めること、困ったときに相談できる力は、卒業後に自分らしく過ごすために欠かせないと改めて感じました。これからは社会とつながり続けるために必要な力を小学部段階から意識して育てていくとともに、生徒に寄り添った進路指導に活かしていきたいと思います。

卒業後の生活と制度のこと：扶養のしくみ

高等部を卒業すると社会人としての生活が始まります。

「税金はどうなるの?」「保険はどうなるの?」「収入的にやっていけるの?」など卒業後の暮らしについて保護者の方から質問をいただきます。今回は、その中でも『扶養』について、わかりやすくまとめました。

扶養には「税法上の扶養」と「社会保険上の扶養」の2つの制度があります。

	 税法上の扶養(所得税)	 社会保険上の扶養(健康保険)
目的	親の税金(所得税)を軽くするための制度	親の健康保険に子が加入できる制度
判断基準	年間の合計所得金額が基準以下かどうか	年収が一定額未満かどうか
収入の目安	合計所得金額が62万円以下	130万円未満が目安
働いていても扶養に入れる?	収入が基準以下なら入れる	収入が基準未満なら入れる
進路との関係	進路に関係なく「収入」で判断	同じく「収入」で判断

参考: 国税庁ホームページ、日本年金機構ホームページ

障害者白書(内閣府)では、扶養に関するデータが掲載されていません。また、国税庁は「扶養控除を受けている人数」を公表しておりません。さらに、社会保険も全国統計として「扶養者の障害者数」をまとめていません。そのため、扶養に関する統計はありませんが、福祉サービスを利用する進路では収入が基準以下となるため、扶養に入っているケースが多いのが実情です。

募集

みなさまからの「知りたい!」を教えてください。通信でとりあげていきたいと思いをします。



進路の行事予定(2学期)

時期	行事	対象	申込方法
10月中旬	高等部校内実習	高等部生徒	
10月15日	高等部1年 進路説明会	高等部1年保護者	—
11月19日	富士通ハーモニー見学会	保護者(全学部)	おしらせを配付・参照

特例子会社のことや、就労に向けてつけておく力などをお話いただきます。「特例子会社を見たい!」「特例子会社ってどんなところ?」「企業と何がちがうの?」と思っている方、お時間のある方、ぜひご参加ください。

